

【全体目標Ⅰ】科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実

最終アウトカム	中間アウトカム	施策	H30(2018) の取組
<p>1次予防</p> <p>1 がんに罹患する 県民が減っている</p> <p>数値目標</p>	<p>(1) がんの発生リスクがあると科学的に実証されている生活習慣等が改善されている</p> <p>数値目標</p>	<p>★[1] 各圏域ごとにごがん罹患状況などから重点的に予防に取り組むがん種を決定し、そのがんのリスクとされている生活習慣病の改善に取り組む(県、市町村)</p> <p>数値目標</p>	<p>・圏域がん対策推進事業を実施</p> <p>・重点的に取り組むがん種</p> <p>松江圏域：大腸がん、雲南圏域：大腸がん、出雲圏域：胃がん、肺がん 大田圏域：5大がん、浜田圏域：男性肺がん、女性乳がん、 益田圏域：子宮頸がん、隠岐圏域：肺がん、大腸がん、乳がん</p>
	<p>(2) (肝炎ウイルス対策) 検討中</p> <p>数値目標</p>	<p>[2] 肝炎ウイルスに対する正しい知識や肝炎ウイルス検査の必要性について普及啓発を行う(県)</p>	<p>・日本肝炎デー(7/28)及び肝臓週間(7/23~7/29)がある7月を重点普及啓発月間として啓発を実施</p> <p>・肝炎の正しい知識や県による無料検査の実施、県ホームページへの掲載や松江城ブルーライトアップによりPR</p> <p>・出張肝炎無料検査・普及啓発イベント(出雲保健所と島根大学合同で開催)</p> <p>・街頭キャンペーン(イオンモール出雲)を患者団体と合同で実施</p> <p>・県民だよりへの掲載</p>
		<p>[3] 子宮頸がん予防ワクチンの接種勧奨やヘリコバクター・ピロリ対策、HTLV-1対策について国の動向をなど注視し、適切な対応に努める(県、拠点病院)</p>	<p>○子宮頸がん予防ワクチン</p> <p>・国は平成25年6月、ワクチン接種後にワクチンとの因果関係が否定できない副反応事例報告があったため、事例を検証し適切な情報提供ができるまでの期間、積極的な接種勧奨を一時的に中止</p> <p>・県内における予防接種後に生じた症状の診療については、島根大学医学部附属病院を協力医療機関に選定</p> <p>○HTLV-1対策</p> <p>・平成22年度から、各保健所及び拠点病院等に窓口を設置し、県民からの相談に対応</p>
<p>2次予防</p> <p>2 がんに罹患した 場合でも早期発見・ 早期受診に つながっている</p> <p>数値目標</p>	<p>(3) 科学的根拠に基づくがん検診(対策型検診)が精度管理の下で実施されている</p> <p>数値目標</p>	<p>[4] 県生活習慣病検診協議会において検診の高い精度管理や事業評価を徹底する(県)</p>	<p>—</p>
		<p>[5] がん検診従事者講習会やがん検診担当者会議を充実させる(県)</p>	<p>島根県環境保健公社に委託</p> <p>・乳がん検診精度管理乳がん検診精度管理講習会(3/9)</p> <p>・大腸がん従事者講習会(3/17)</p> <p>・担当者会議(6/22)</p> <p>・担当者研修会(9/9)</p>
		<p>★[6] 国の指針に基づいたがん検診の実施および精度管理の向上に取り組む(市町村)</p>	<p>・市町村または圏域単位でがん検診の事業評価や精度管理向上に関する検討会を実施</p>
		<p>[7] 検診技術の質の向上を図る(検診機関)</p>	<p>・読影委員会研修会開催、第三者機関が実施する精度管理調査に参加(島根県環境保健公社)</p> <p>・読影委員会開催、専門技師及び認定医の資格取得、学会への参加、施設認定の取得、精度管理委員会開催、外部精度管理への参加(島根厚生農業協同組合連合会)</p> <p>・講習会参加(ヘルスサイエンスセンター島根)</p>
		<p>[8] 効果的ながん検診を実施するためのデータ収集・分析を実施する(県)</p>	<p>・がん検診の事業評価や効果的な事業の企画立案のために必要な各データの集計・分析・提供を実施。</p>
		<p>★[9] 各圏域ごとにごがん死亡状況などから重点的に取り組むがん種を決定し、そのがん検診の精度管理を強化する(県、市町村)</p>	<p>・圏域がん対策推進事業を実施</p>
		<p>[10] 検診の実施把握及びその結果から検診体制の整備を検討する(県)</p>	<p>・島根県がん検診実施体制調査を実施</p>
<p>(4) 働き盛り世代の受診率が向上している</p> <p>数値目標</p>	<p>★[11] 医師会と連携し、かかりつけ医による受診勧奨を推進する(県)</p>	<p>・医受診勧奨リーフレットを作成、かかりつけ医からの受診勧奨を実施 配布先：419医療機関</p>	
	<p>[12] 特定検診とがん検診の同時受診の促進を図る(市町村、協会けんぽ)</p>	<p>・健診機関が実施する集団検診にごがん検診をセットし、チラシにより案内(被扶養者)</p> <p>・協会けんぽ島根支部において、がん検診受診啓発のチラシを作成し、案内(被扶養者)</p> <p>・特定健診とがん検診が同時に受診できる「特定健診セット」を県内26健診機関と契約し、案内(被扶養者)</p> <p>・特定健診にごがん検診をセットした「生活習慣病予防健診」を案内(被保険者：35歳以上) (全国健康保険協会島根支部(協会けんぽ))</p>	
	<p>★[13] 各圏域ごとにごがん死亡状況などから重点的に取り組むがん種を決定し、そのがん検診の受診率向上対策を強化する(県、市町村)</p>	<p>・圏域がん対策推進事業を実施</p>	

【全体目標Ⅱ】患者本位で将来にわたって持続可能なしまねらしいがん医療の実現

最終アウトカム	中間アウトカム	施策	H30(2018) の取組
<p><b>がん医療</b></p> <p>3 県内どこに住んでいても安心してがん医療が受けられている</p> <p>数値目標</p>	<p>(5) 拠点病院体制を維持し、患者が適切な医療を受けられている</p> <p>数値目標</p>	<p>★[14] 拠点病院体制維持のために必要な施策を講じる（県）</p> <p>数値目標</p>	<p>・がん診療連携拠点病院機能強化補助金の交付 対象病院：松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院 補助率等：国1/2、県1/2 補助額：31,157千円（3病院）</p>
		<p>★[15] 都道府県拠点病院として、拠点病院間の連携体制強化、人材養成及び医療機能の向上による全県のがん診療の質の向上を図る（島根大学医学部附属病院）</p>	<p>・島根県がん診療ネットワーク協議会の開催 がん相談員実務担当者会（6/11、1/21） がん診療部会（11/12） がん登録部会（11/13） 島根県がん診療ネットワーク協議会（3/26）</p>
		<p>★[16] 地域拠点病院として、地域の病院・診療所等と連携を図り、地域医療提供体制を強化する（松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院、浜田医療センター）</p>	<p>・緩和ケア多職種カンファレンスコア委員会、地域連携講演会（7/19）、在宅緩和ケア多職種カンファレンス講演会（10/18、3/4）、公開セミナー（11/1）の開催（松江市立病院）</p> <p>緩和ケアシンポジウム、化学療法研究会の開催、五大がんクリティカルパスの活用（松江赤十字病院）</p> <p>がんパスの活用（県立中央病院）</p> <p>他施設合同会議の開催（浜田医療センター）</p>
	<p>(6) 拠点病院と地域の病院等の機能分担による連携強化が図られている</p> <p>数値目標</p>	<p>★[17] 益田赤十字病院の拠点病院とのグループ指定により地域がん診療病院指定に向けた支援を行う（県）</p> <p>数値目標</p>	—
		<p>[18]（再掲）都道府県拠点病院として、拠点病院間の連携体制強化、人材養成及び医療機能の向上による全県のがん診療の質の向上を図る（島根大学医学部附属病院）</p>	（再掲 [15]）
		<p>[19]（再掲）地域拠点病院として、地域の病院・診療所等と連携を図り、地域医療提供体制を強化する（松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院、浜田医療センター）</p>	（再掲 [16]）
		<p>[20] 拠点病院から地域の病院へ患者が紹介されるように支援を行う（県、島根大学医学部附属病院）</p> <p>数値目標</p>	<p>・島根県がん診療ネットワーク協議会がん診療部会（11/12）</p>
		<p>★[21] 地域の病院のがんチーム医療のレベルアップを行う（県、拠点病院）</p>	<p>・がんチーム医療づくり推進事業委託 対象病院：雲南市立、町立奥出雲、飯南、公立邑智、隠岐、隠岐島前（6病院） 委託金額：2,554千円余</p>
		<p>[22] 診療所や介護施設等を含めた医療機能分担が図られるための事業実施を検討する（県、拠点病院等）</p>	<p>・緩和ケア多職種カンファレンスコア委員会を開催し、院内外の医療介護等関係者間で情報共有、意見交換を実施（松江市立病院）</p>
		<p>(7) 集約化されている医療や臨床研究等へのアクセスが可能になっている</p> <p>数値目標</p>	<p>[23] 高度な医療等へのアクセスが可能となる方法の検討を行う（県、拠点病院）</p>
<p><b>緩和ケア</b></p> <p>4 患者やその家族の痛みやつらさが緩和され、生活の質が向上している</p> <p>数値目標</p>	<p>(8) がん診療に携わるすべての医療・介護従事者が患者とその家族の身体的・精神的・心理社会的痛みに対応できている</p> <p>数値目標</p>	<p>[24] 緩和ケアに係る研修会を行う（県、拠点病院）</p> <p>数値目標</p>	<p>・緩和ケア研修会の開催（拠点病院及び県医師会主催計6回） 修了者数：医師142名、医師以外45名 ・松江市立病院地域連携講演会（7/19）、在宅緩和ケア多職種カンファレンス講演会（10/18、3/4）（松江市立病院）</p>
		<p>[25] 医師以外で患者とその家族に関わる医療・介護従事者への緩和ケアに係る研修を行う（県、医療機関）</p>	<p>・ELNEC研修会（11/3～11/4）、市民公開講座（10/7）、地域連携講演会（7/19）、在宅緩和ケア多職種カンファレンス講演会（10/18、3/4）（松江市立病院）</p> <p>・島根県がん診療連携拠点病院がん看護研修（緩和ケア）、ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム（9/22-23）、がん看護におけるコミュニケーションスキルを磨く～患者の感情表出を促すツールNURSEをもちいて（6/2）（島根大学医学部附属病院）</p> <p>・PCAポンプ研修会、キャリアアップ研修がん看護コース（県立中央病院）</p>
		<p>[26] 緩和ケアを適切に提供する体制を強化する（医療機関）</p> <p>数値目標</p>	<p>・厚生労働省緩和ケアチーム研修指定病院、緩和ケアセンター設置、緩和ケア多職種カンファレンスコア委員会開催（松江市立病院）</p> <p>・苦痛スクリーニングを実施、緩和ケアセンター（緩和ケア病棟・チーム外来）に1名のがん看護専門看護師、4名の緩和ケア認定看護師を配置、緩和ケアリンクナースの配置、がん看護外来、薬剤師外来の設置、日本緩和医療学会のセルフチェックプログラム参加（島根大学医学部附属病院）</p> <p>・苦痛スクリーニング実施、PCAポンプ使用体制を整備（県立中央病院）</p> <p>・緩和薬物療法認定薬剤師1名（益田赤十字病院）</p>
		<p>[27] 個別の状況に応じた緩和ケアや、グリーフケアに対する取組について検討する（県、拠点病院等）</p>	<p>・緩和ケアチームや緩和ケア病棟によるデスカンファレンスの実施、遺族来院時の対応や遺族へのグリーフハガキの送付、緩和ケア病棟主催の遺族会の定期開催（松江市立病院）</p> <p>・遺族ケアワーキンググループを設置、グリーフレター送付予定（島根大学医学部附属病院）</p> <p>・必要に応じてデスカンファレンスを実施（県立中央病院）</p>

【全体目標Ⅱ】患者本位で将来にわたって持続可能なしまねらしいがん医療の実現

最終アウトカム	中間アウトカム	施策	H30(2018)の取組
<b>緩和ケア</b> 4 患者やその家族の痛みやつらさが緩和され、生活の質が向上している 数値目標	(9) 患者が望む場所で適切な緩和ケアを受けられている	★[28] 地域の緩和ケア提供体制の強化を図る(県、医療機関) 数値目標	・緩和ケアネットワーク会議、緩和ケア従事者研修会の開催
	(10) 患者とその家族が、自分らしく生きるために治療や療養生活を自己選択し、その状況に満足している 数値目標	[29] 意思決定支援のあり方や方策について検討する(県、拠点病院等)	・ACPワーキンググループを設置(松江市立病院) ・終末期医療に係るガイドラインを作成(県立中央病院) ・地域包括ケアシステム関係機関連絡会議(3/12)でACP取組事例を共有

【全体目標Ⅲ】尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

最終アウトカム	中間アウトカム	施策	H30(2018)の取組
<b>患者家族支援</b> 5 患者とその家族の治療や療養生活の悩みが軽減している	(11) 患者が相談できる環境があると感じている 数値目標	[30] 県内のがん相談支援体制の強化のため、国が提唱する統括相談支援センター(がん患者家族サポートセンター)の運営を行う(県、島根大学医学部附属病院)	・がん患者家族サポートセンター運営を島根大学に委託
		[31] がん患者や家族に対して、がん相談支援センターを周知する(拠点病院の医療従事者) 数値目標	・ホームページ、院内掲示、パンフレット、出前講座により周知(松江市立病院) ・パンフレット・ホームページ、啓発イベントにより周知(松江赤十字病院) ・リーフレット、院内モニターにより周知(島根大学医学部附属病院) ・院内イベント、ポスター、市民公開講座、市民向け講座(出雲中央図書館、島根大学と協力)により周知(県立中央病院)
		[32] 相談支援体制の広域連携を検討する(県・サポートセンター・拠点病院)	・島根県がん診療ネットワーク協議会がん相談実務担当者会(6/11、1/21)、鳥取県との共催による2019年度相談員研修企画協議(島根大学医学部附属病院)
	(12) 相談支援センターが患者やその家族の不安や悩みに対応できている 数値目標	★[33] 県内のがん相談に関わる相談員(MSW、看護師、心理士等)の資質向上を行う(県、サポートセンター、拠点病院等) 数値目標	・がん相談員等研修会の開催(10/21) 参加者数:31名(13病院)
		[34] (再掲) 相談支援体制の広域連携を検討する(県・サポートセンター・拠点病院)	(再掲 [32])
	(13) 患者や家族が正しい情報を得られている	★[35] 患者や家族に様々な手段(ホームページ、SNS、しまねのがんサポートブック、がん関連図書等)により情報提供を行う(県)	・県ホームページ「しまねのがん対策」の情報更新、配布 作成部数:5,000部 ・「しまねのがんサポートブック」高額療養費制度の更新 ・県立図書館におけるがん関連図書整備(H30 158冊)累計2,056冊(H21~)
		★[36] SNSは双方向の情報発信が可能である特性を生かし、患者や家族からの反応に対して、必要な対応を行います(県)	-
	(14) 患者やその家族が、ピアサポートを受けることで悩みが軽減できている 数値目標	[37] 科学的根拠に基づく情報提供を、わかりやすくかつ確実にを行うよう努める(拠点病院等)	・ホームページに治療実績を掲載(松江市立病院) 数値目標 ・がん情報センターの活用(インターネット・冊子等)や他の拠点病院との連携、医師や専門領域看護師等との連携による情報提供(松江赤十字病院) ・国立がん研究センターがん情報サービス、静岡がんセンターよろず相談、県内拠点病院ホームページを活用した情報提供、一般向けのガイドラインを提示しながらの相談支援(島根大学医学部附属病院) ・がん相談員による情報提供(県立中央病院) ・サポートブックやがん情報サービス等による相談(益田赤十字病院)
		★[38] ピアサポート(患者サロン・ピアサポーター相談)の充実に努める(県、サポートセンター、拠点病院等)	・患者サロンの活動支援(松江市立病院) ・ほっとサロンとの連携による相談支援、ほっとサロン便り作成支援の実施(島根大学医学部附属病院) ・なごやかサロン、周知活動のため院内イベント実施(県立中央病院) ・ピアサポーター相談会(島根大学へ委託) 開催病院:松江市立、松江赤十字、県立中央病院、島根大学医学部附属病院、浜田医療センター、益田赤十字、安来第一、雲南市立、大田市立、隠岐(10病院) 開催回数:42回 相談者数39名(34組) ・がんピアサポーター活動を考える会(島根大学へ委託) 開催日程:5/15,7/3,10/3(3回) ・ピアサポーターフォローアップ研修(島根大学へ委託)(11/17) 参加者数:ピアサポーター14名、サロン関係者4名 ・ピアサポート養成研修会(厚生労働省委託事業)への参加(松江市立) 開催日程:2/9~10 参加者数:2名(患者と相談員のペア)

【全体目標Ⅲ】 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

最終アウトカム	中間アウトカム	施策	H30(2018) の取組
患者家族支援 5 患者とその家族の 治療や療養生活の 悩みが軽減している  数値目標	(15) がん患者と家族のQOLが向上している	[39] がん患者の経済的問題の軽減やアピアランス支援などを行う（県、拠点病院等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済的問題に関する相談支援（松江市立病院）</li> <li>・ 医療費制度の情報提供や経済的問題の相談支援（松江赤十字病院）</li> <li>・ 社会保障制度の情報提供（ウィッグ・補整下着助成制度も含む）、アピアランスケアについて看護専門外来と連携し情報提供（島根大学医学部附属病院）</li> <li>・ アピアランス（外見）ケア講演会・相談会 開催日程：11/9 参加者数：24名</li> </ul>
	(16) 【小児AYA】患者や家族が、相談できる環境が整っている	★[40] 【小児AYA】小児AYA世代患者の実態把握を行い、施策を検討する（県、拠点病院）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ がん看護専門看護師を中心に情報提供や心理的サポートを実施（松江市立病院）</li> <li>・ 小児がん患者実態調査（島根大学医学部に委託） 調査期間：2/12～3/15 対象病院：島根大学医学部附属病院 回答者数/送付者数：39名/74名</li> <li>・ AYA実態調査（島根大学医学部に委託） 調査期間：12/1～1/4 対象病院：松江市立、松江赤十字、県中、島大医学部附属、浜田医療センター、益田赤十字、安来市立、松江生協(8病院) 回答者数/送付者数：98名/227名</li> </ul>
		[41] 【小児AYA】患者きょうだいのフォローや支援を検討する（県、拠点病院等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族に対して小冊子を活用し情報提供（島根大学医学部附属病院）</li> </ul>
	(17) 【小児AYA】相談支援センターが患者やその家族の不安や悩みに対応できている	[42] 【小児AYA】小児・AYA世代患者の家族の付き添い支援を行う（島根大学医学部附属病院）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入院児童等家族宿泊施設「だんだんハウス」の運営（島根大学医学部附属病院）</li> </ul>
		[43] 【小児AYA】必要に応じて妊孕性温存のための施策の実施を検討する（県）	—
	(18) 【小児AYA】患者が療養生活において保育・教育を受けられる環境が整備されている	[44] 【AYA】療養中の高等教育のあり方について、関係機関と検討する（県）	—
	(19) 【働き盛り】患者が療養生活と仕事を両立できている  数値目標	[45] 【働き盛り】がん患者の治療と職業生活の両立支援を推進する（県、拠点病院等、ハローワーク、産業保健総合支援センター等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就労支援ナビゲーターとの連携による就労相談会 場所（日程）：島根大学医学部附属病院（毎週木曜日） 県立中央病院（毎月第1,3水曜日） 相談者数：18名（ハローワーク出張）</li> <li>・ 両立支援促進推進員による就労相談会 場所（日程）：松江市立（毎月第1水曜日） 松江赤十字（毎月第4水曜日） 県立中央病院（毎月第2水曜日） 相談者数：4名</li> <li>・ 浜田医療センターへ出張相談窓口を新設、がん情報提供促進病院個別訪問による周知（産業保健総合支援センター）</li> <li>・ ホームページ、パンフレット、院内ポスター、電子掲示板による周知（松江市立病院）</li> <li>・ 院内モニターによる広報（島根大学医学部附属病院）</li> </ul>
		[46] 【働き盛り】事業主への両立支援を推進する（県、拠点病院等、島根労働局、産業保健総合支援センター等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 島根県地域両立支援推進チームへの参加（島根大学医学部附属病院）</li> <li>・ 産業保健総合支援センターとの勉強会（県立中央病院）</li> <li>・ 島根県地域両立支援推進チームの活動を通じた「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」や治療と仕事の両立支援に取り組む事業者に対する助成金制度の周知、研修講師派遣、労働基準監督署が実施する研修会、説明会等で「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」等を周知（島根労働局）</li> <li>・ 産業医・事業場担当者向け研修会の開催、事業場個別訪問による周知・普及（島根県産業保健総合支援センター）</li> <li>・ しまね☆まめなカンパニー登録制度 登録数：146事業所（31.3末）</li> </ul>
		★[47] 【働き盛り】がん患者の復職のモデルとなる取組を行い、その状況について患者や事業主に対し情報発信していく（県、ハローワーク）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 嘱託職員を雇用し情報発信（1名 30.8～30.11）</li> </ul>
	(20) 【働き盛り】患者の子供等の悩みが軽減できている	[48] 【働き盛り】県や拠点病院は働き盛りのがん患者の子ども等に対して必要な支援を検討する（県、拠点病院）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小児科医師、CLSを中心とした「子どもサポートチーム」で個別支援（島根大学医学部附属病院）</li> </ul>
(21) 【高齢者】患者や家族の悩みが軽減できている	[49] 【高齢者】認知症等を合併した患者に対し必要な支援を行うため、国が策定するガイドラインをもとにその施策を検討する（県、拠点病院等）	—	

【全体目標Ⅲ】 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

最終アウトカム	中間アウトカム	施策	H30(2018) の取組
<p>がん教育</p> <p>6 県民が自分や身近な人ががんに罹患してもそれを正しく理解し、向き合っている</p> <p>数値目標</p>	<p>(22) がんについて正しく理解している</p> <p>(23) 健康や命の大切さについて理解している</p>	<p>★ [50] 子どもの発達の段階を踏まえたがん教育を実施する（学校）</p> <p>数値目標</p>	<p>【私立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校 3校</li> <li>・高等学校 4校</li> </ul>
		<p>[51] 文部科学省が作成した資料や県の研修会を踏まえた校内研修を実施する（学校）</p> <p>数値目標</p>	<p>【私立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校 1校</li> </ul>
		<p>[52] がん教育の外部講師を養成する（県）</p> <p>数値目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん教育外部講師養成研修（3/3）</li> <li>講師：東京女子医科大学教授 林 和彦氏 松本医院院長 松本 祐二氏</li> <li>参加者数：79名</li> </ul>
		<p>[53] 学校ががん教育を子どもだけでなくその保護者へも公開して実施するための支援を実施する（県）</p> <p>数値目標</p>	<p>【公立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育研修や養護教諭部会において啓発、たより等による啓発</li> <li>・がん教育公開授業（12/18）</li> <li>対象：浜田高等学校定時制課程</li> <li>講師：NPO法人がんサポートかごしま 三好 綾氏</li> </ul>
		<p>★ [54] がんに関する情報発信を、SNSなど様々な手段を用いて確実にわかりやすく実施する（県）</p>	—
		<p>[55] SNSは双方向の情報発信が可能である特性を生かし、県民からの反応に対して、必要な対応を行う（県）</p>	—
		<p>[56] がんに関する情報発信を様々な関係者と一体になって実施する（県）</p> <p>数値目標</p>	—